



夕張市の若手職員の現状について!

今回のじょいふるは、財政破綻から7年が経過し、現在も厳しい市政運営を強いられている夕張市の職員の現状をお伝えします。

◆夕張の現状① 給与削減

夕張市職員の給与は、財政再生計画により基本給平均20%の削減を強いられています。賞与は1ヶ月分の削減となっています。若手職員の年収ベースで約50万円の削減です。若手職員は3年で4割が退職し、先輩職員の退職も後を絶たない状況です。

基本給 - 3万円/月 + 賞与 - 20万円 = 年 - 50万円

生活困窮

◆夕張の現状② 職場環境

財政破綻で職員は半数以下になりました。その際、管理職は全員が退職し、仕事の伝達がしつかりとされませんでした。現在でも職場に余裕がなく、新人職員は2・3日の研修のみで即戦力として働かなければなりません。精神的に苦しんでいる職員もいます。

職員数半減
業務量倍増

精神疾患
士気低下

長期休暇
退職

精神的苦痛

◆夕張の現状③ 組合活動

夕張市職労青年部は休部中のため、青年部層の2名が基本組織の執行役員として活動しています。「生活の困窮」と「恒常的な時間外勤務」に苦しんでいる仲間の現状を市長に伝え、要求を行っています。

今年度、賞与の算定基準の見直し(削減後の額→削減前の額で算定)が行われましたが、若手職員の回復額は少なく、生活はまだまだ改善されていないのが現状です。

給与回復

- ・ 多重債務に陥るほど生活が困窮
- ・ 退職者数の増加

職員数の確保

- ・ 恒常的な時間外勤務の増加
- ・ 新人職員が放置されている

◆改善への第一歩 …… 何でも話せる環境づくり

平成23年度に採用となった9名のうち、現在までに4名が退職しました。給与や職場環境の悩みが大きな原因ではありますが、職員間のコミュニケーション不足も原因の一つであると考えています。

夕張市は財政破綻してから、職場の飲み会は新年会程度になりました。組合主催の交流会も消滅。同期会も生活が苦しくなるにしがって減っていきました。誰にも相談できず、悩みを抱え込んでしまうことが多かったのです。

そのため、同期会を「家飲み」形式で開くことにしました。料理は手作りで、飲み物は持ち寄ることです。予算がかかりません。来れる人は来るというスタイルで、月に2回程度開いています。悩んでいそうな人は積極的に声をかけています。コミュニケーションが深まってくると、キャンプに行ったり、マラソン大会に出たりと、他の活動に繋がりました。徐々に相談し合える仲になってきました。

組合活動は、『隣にいる仲間のことを考えるのが第一歩』だと思います。夕張の交流活動は、空知地本の活動がベースになっています。これからも仲間と支え合っていきたいです。

